



株式会社  
セブン-イレブン・ジャパン

社会・環境への取り組み  
2016-2017



### (株)セブン&アイ・ホールディングス

グループ会社

(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)イトーヨーカ堂、(株)そごう・西武、(株)ヨークベニマル、(株)ヨークマート、  
(株)セブン&アイ・フードシステムズ、(株)セブン銀行、(株)セブンカードサービス、(株)セブン&アイ・ネットメディア、  
(株)ニッセンホールディングス、(株)ロフト、(株)赤ちゃん本舗、(株)オッシュマンズ・ジャパン、ほか



<発行元>

株式会社セブン-イレブン・ジャパン  
企業行動推進室

〒102-8455 東京都千代田区二番町8-8

<http://www.sej.co.jp/social/>



本冊子は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC(揮発性有機化合物)ゼロの植物油インキ、見やすく間違えにくいユニバーサルデザインフォント、FSC®認証紙を採用しています。制作時に排出したCO<sub>2</sub> 4,795kgは、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じてオフセット(相殺)されます。

お願い 本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルいただくようお願いいたします。

もっと近くに、もっと便利に。



—もっと近くに、もっと便利に—

# セブン-イレブンがつなぐ 未来への挑戦

1974年5月15日、東京都江東区に1号店が開店した時から  
私たちセブン-イレブンは、つねにお客さまの立場に立って  
時代の変化に呼応し、さまざまな社会課題に対して  
お役に立てる方法を探究してまいりました。

いつまでも、お客さまの笑顔につながる存在であり続けるために  
これからも挑戦を続けてまいります。

## Index

Challenge1 「ネット×セブン-イレブン」で新しいお買い物のカタチを提案	3
Challenge2 いつでもお買い物ができる「安心」を届ける	7
Challenge3 お客さまのさまざまな「ほしい」に応える	11
Challenge4 地域社会の「いきいき」を応援する	15
Challenge5 地域の皆さまの「心配ごと」に向き合う	21
Challenge6 「未来世代」のために	25
森づくりによって地域の生活を変えた「えりも岬セブンの森」	31
重点課題／環境方針／会社概要	33



# 「ネット×セブン-イレブン」で 新しいお買物のカタチを提案

インターネットの普及にともない、ネットでお買い物をする方が増える一方で、ネットでのお買い物に不便を感じる方も増えています。「信頼できるサイトが不安」「昼間は不在なので宅配便を受取れない」「返品に手間がかかる」など、ネットを使ったお買い物は便利な反面、さまざまな不便が存在しています。

そこで、セブン-イレブンのお店を受取り拠点とする新しいネット通販「omni7」（オムニ7）を開始しました。オムニ7では、セブン&アイグループの特性を活かし、コンビニエンスストアだけでなく、百貨店、総合スーパー、専門店、レストランなどバラエティ豊かな品揃えの実現をめざしています。



# セブン-イレブンを拠点にすることで「もっと快適」なネットショッピングを実現

## さまざまな方法でご注文

お買い物はこちらから



PC  
スマホで

お店で

ご自宅で

ネットでのお買い物に慣れていない方でも、従業員がご要望をおうかがいしますので安心です。

従業員が御用聞きや配達の際にご注文をおうかがいします。



オムニ7では、全国に1万9,000店以上あるセブン-イレブンのお店がサービスの拠点となっており、ネットとお店を融合させた新しいお買い物のカタチを提供しています。24時間営業のセブン-イレブンなら、いつでも商品を受取ることが可能です。また、お店のタブレット端末からもご注文いただけるため、ネットショッピングを手軽にご利用いただけます。

## ご都合のよい方法でお受取り

ご自宅に  
配送



ご自宅への配送はもちろん、お届け先を指定できますので※、遠方の方への贈り物にも最適です(送料別)。  
※宅配指定の場合。

お店で  
受取り

ご希望のお店や時間帯に受取りが可能です。单身の方や共働き世帯など、ご自宅で受取れない方にも便利にご利用いただけます。またお店受取りの場合、送料はかかりません。

お店で返品・  
返金も

お店で受取った商品に限り、商品受取り後、8日以内にカスタマーセンターへご連絡いただければ、返品・返金が可能です。

※お店で返品をお受けできない商品もございます。詳しくはオムニ7のWebサイトをご確認ください。

# いつでもお買い物ができる 「安心」を届ける

日本の高齢化は世界で最も速いスピードで進んでいます。65歳以上の高齢者比率は2000年の17.4%から2015年には26.7%となり、2025年には30%を超えると予測されています。また、世帯数は2001年の4,566万世帯から2015年には5,036万世帯に増加しており、なかでも高齢者のみの世帯比率は14.5%から25.2%へと上昇しています\*。

一方で小売店は減少しており、お買い物に不便を感じている方がますます増えています。

※ 総務省統計局「人口推計」「日本の将来推計人口」、厚生労働省「国民生活基礎調査」



# お買い物の不便を解消する さまざまな形のお届けサービス

## セブンミール

医師や管理栄養士の監修による栄養バランスに配慮したお食事や、お店で人気の食品、日用品などをご自宅までお届けするサービスです。また、事前に注文し、お店で受取することもできます。



ご注文はこちらから



ご高齢の方の見守りにも

ご自宅へのお届けは、定期的にご注文をくださるご高齢の方の見守りにもつながっています。多くの行政と連携し、安心な生活のサポートに協力しています。

▶ P23ご参照

## 事業所へのお届け

社員食堂の減少や昼食時の混雑などで、お困りの事業所には直接お届けも行っています\*。

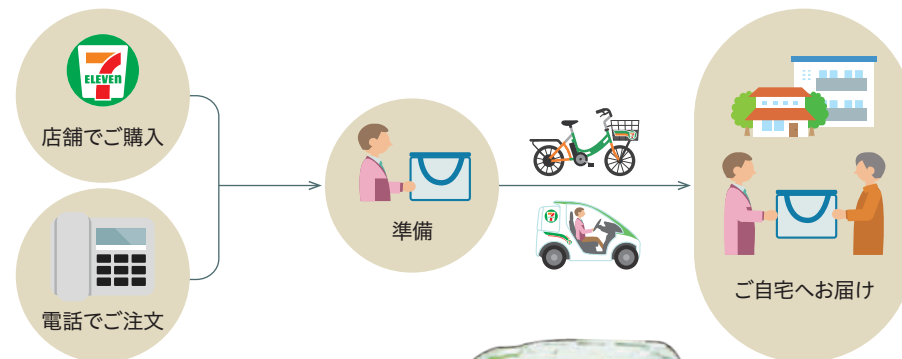
※一部ご利用いただけない店舗もあります。



## セブンあんしんお届け便

過疎化が進む地域や被災地など、お買い物が不便な地域には、移動販売車を使って、お買い物の場を提供することにも取り組んでいます。2016年8月現在、1道18県で35台が稼働しています。

## セブンらくらくお届け便



お店でご購入いただいた商品、または事前に電話でご注文いただいた商品をお客さまのご自宅などにお届けするサービスです\*。重い物やかさばる物を持ち帰らずにすむため、ご高齢の方や小さなお子さまがいらっしゃる方にもご利用いただいています。

※一部ご利用いただけない店舗もあります。



配達には超小型電気自動車「コムス」を利用するなど環境にも配慮しています。(2016年8月現在で831台が稼働)

# お客さまのさまざまな 「ほしい」に答える

年々、仕事を持つ女性は増加しており、15～64歳の女性の就業率は2015年に64.6%といままで最も高くなっています。また、世帯あたりの人数は1980年の3.2人から2015年には2.4人へと減少しています\*。

社会環境の変化を背景に、ご家庭での食を取り巻く環境も大きく変わってきました。「共働きなので調理に手間をかけられない」「手軽にバランスの良い食事を摂りたい」「少人数なので少量だけ買いたい」「保存ができて、食べたい時にすぐ食べられるお惣菜がほしい」など、食に対するニーズは大きく変化しています。

※ 総務省「労働力調査」「国勢調査」



# 時代の変化に合わせて さまざまな商品を品揃え

## セブンプレミアム

品質を重視しつつ手頃な価格で提供しているセブンプレミアムは、食品から日用品まで揃った、セブン&アイグループのオリジナル商品です。なかでも、惣菜はご家庭の定番メニューを中心に、メインのおかずから食卓のプラス1品まで幅広く取り揃えています。また、冷蔵のお惣菜はパウチパックにすることで保存性を高めているため、買い置きも可能です。



## セブンプレミアム

### 冷凍食品

新しい冷凍技術を取り入れることでおいしさと品質を高めた冷凍のご飯や麺類、おかずやおつまみ、調理素材など新しいメニューを開発し、品揃えの幅をひろげました。長期保存がきくため、フードロス対策にもつながっています。



### カット野菜

手軽に野菜を摂っていただけるよう、洗う、切るなどの手間がかからない、カット野菜の品揃えを充実させています。



洗い不要



カット不要

### フライヤー商品

揚げ物は人気のおかずですが、ご家庭での調理は、油の後始末などに手間がかかるため、敬遠されがちです。お店では、店内で揚げたコロケやメンチカツ、唐揚げなどすぐに食卓に並べられる惣菜をご用意しています。  
※ご予約も承ります。





# 地域社会の「いきいき」 を応援する

日本における労働力人口は、2005年の6,540万人から2015年は6,075万人に大きく減少しています※。今後、さらに減少していくことが予想されており、政府は「一億総活躍社会」「地方創生」を日本が取り組むべき大きなテーマとしています。

働きたいけれども働ける場が少ない、または優れた地域産品がありながらも適切な販路がないなど、地域によってその課題はさまざまです。地域に根ざしたセブン-イレブンだからこそ、これらの社会課題に対し、解決の一翼を担えるよう取り組みを進めています。

※ 総務省「国勢調査」



# 活躍する場を生み出すことで 充実した毎日を応援

## シニアの活躍を推進

セブン-イレブンでは、働く意欲のあるシニア層の雇用を促進しています。シニアスタッフは、人生の先輩として若い従業員へのお手本となることも多く、お店にはなくてはならない存在です。日常生活のご負担にならないよう、ご自身のペースでご活躍いただける環境を整えています。



### comment

定年退職後、時間をもてあますようになり、「何かせないかな」と思っていました。そんな時に「元気な中高年の方、一緒に働きませんか?」という募集広告を見て、軽い気持ちでセブン-イレブンで働き始めました。とくにセブンミールの配達を通して私よりも高齢の方の話し相手になり、必要な商品などをおすすめすることで、暮らしを支えられる仕事にやりがいを感じています。お客さまに喜んでもらえることがとてもうれしく、健やかな毎日を過ごせています。(京都府 Kさん)

## 起業家支援

「独立して、いつかは自分の店を」そんな起業の夢を、セブン-イレブンは応援しています。日本のセブン-イレブンは、まちの小売店の活性化を目的にスタートしました。古くから日本の小売店は、地域の人々の生活に密着し、お客さまの信頼を得て、まちに根づいてきました。これからも、「なくてはならない存在」として、地域を支える起業家を支援していきます。



### comment

20代から考えていた「独立」。親戚のすすめでセブン-イレブンを立ち上げ、つねに丁寧な接客を心がけてお店を運営してきました。これからも「生活の一部」として、生まれ育ったこのまちを盛り上げていきたいです!(島根県 Kさんご夫妻)

## 多様な働き方を 支援



ライフステージの変化とともに働き方も変わります。育児中の主婦の方や子育てを終えられた方など、ご自宅から近くのお店で、空いた時間を有効に活かせる職場として、多くの方がお店で活躍しています。

### comment

出産を機に退職し、育児もひと段落して新しい職場を探していた時に、近所のセブン-イレブンがアルバイト募集をしていたので働き始めました。以来、和気あいあいとしながらも切磋琢磨できる良い環境で、育児・主婦業との両立をしながら楽しく働いています。そんな姿を見ているからか、子どもが「大きくなったら、セブン-イレブンのお店で働きたい」と作文を読んでもらった時は、涙が止まらないくらいうれしかったです。(東京都 Aさん)

# 地域に寄り添い 地方創生と活性化に貢献

## 地産地消の促進

それぞれの地域で、地場の食材を使用したお弁当やサラダ、デザートなどさまざまな商品の開発に努めています。地場の食材を使用することで、生産者の方に販路を提供し、さらに地域の経済活性化にも貢献しています。また、収穫された食材がその地域で消費されることで、輸送に使うエネルギー消費を軽減することから、CO<sub>2</sub>の削減にもつながっています。

長野県と連携して商品開発された  
「信州ACEチキンカツ弁当(生姜風味ジュレ)」  
(2016年3月に長野地区限定で発売)



長野県産米  
のごはん

寒天ジュレソース  
(長野県内メーカーの  
製造の寒天を使用)

くすみ味噌和え  
(信州味噌を使用)

舞茸入り野菜炒め  
(長野産舞茸を使用)

セブン-イレブンでは、全国の各自治体と地域包括連携協定の締結を進めています(P23ご参照)。地域の食材を使用した商品の開発を通じて、より一層の地域活性化に貢献してまいります。



信州上田祇園祭(長野県)

## 商店街との連携

地域に密着したお店として、商店街と連携し地域の活性化につながる取り組みを進めています。例えば、お祭りなど商店街が主催するイベントへの参加など、地域のまちづくりに貢献しています。



## サプライチェーン 全体で

お弁当やお惣菜などセブン-イレブンのオリジナル商品だけを製造している専用工場は、2016年8月現在、全国に164工場あります。また、商品をお店に運ぶために仕分けを行う専用の物流センターは全国に147カ所。そして、配送のドライバーやお店の従業員の方を含めると、セブン-イレブンでお客さまのもとへ商品をお届けするために働く人は、全国で約46万人に及んでおり、サプライチェーン全体で地域の活性化に役立っています。

# 地域の皆さまの 「心配ごと」に向き合う

国内の飲食品小売業の店舗数は2004年の45万店から年々減少し、2012年には32万店となっています\*。都心であっても近くに小売店がないなど、買い物に不便を感じている方が増加しています。また、身内が近くにいらっしゃらないご高齢の単身世帯も増えています。

※ 総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」



## 地域のインフラとして 安全・安心をサポート



東京都江東区と「高齢者地域見守り活動に関する協定」を締結(2016年7月)

### 行政との連携

「災害時支援」や「子育て支援・高齢者見守り」「住民サービスの向上」「地産地消」などの活動を地域社会とともに推進するため、全国の自治体と地域包括連携協定の締結を進めています。2016年8月現在、64自治体(41道府県23市)と協定を結んでおり、今後も積極的に進め、地域の活性化や安全・安心に対する取り組みに協力していきます。

### 行政証明書の交付サービス

2010年よりセブン-イレブンは自治体と連携し、住基カード(2016年よりマイナンバーカード)を使って「住民票の写し」など6種類の証明書を店内のマルチコピー機で発行できるサービスを開始しています。自治体とJ-LIS(地方公共団体情報システム機構)間で接続されているネットワークを使用することで、高度なセキュリティを実現しており、安心してご利用いただけます。これにより行政の受付時間に窓口へ向かうことが難しい方でも、お近くのセブン-イレブンで容易に証明書を受取ることができるようになりました。2016年8月現在、247自治体の証明書発行が可能となっておりますが、マイナンバーの本格展開にとともに、さらに提携する自治体の拡大が見込まれています。



マルチコピー機で発行

### 災害時の対応

大規模災害が発生した際でも、「困っている時だからこそ、地域のお役に立ちたい」との思いから、多くのお店が安全性を確保のうえ、営業を続けます。また、セブン-イレブン本部ではお取引先のご協力をいただきながら、緊急物資支援や商品供給など、被災地域の復旧に向けて全力でバックアップしています。



停電のなか、被災しながらも営業を続けるお店(2016年4月 熊本地震)

### 安全・安心なまちづくりを支える セーフティステーション活動



2005年から、女性や子どもの駆け込みや高齢者保護など地域の安全・安心をサポートするセーフティステーション活動に取り組んでいます。「防犯カメラなどによる地域の治安維持」「未成年者への酒類・たばこの販売防止」「女性や子どもの駆け込みや高齢者の保護」「ATMを使った振り込め詐欺の抑止」など、地域の見守り役を担っています。



# 「未来世代」 のために

世界的な課題である地球温暖化の解決のために、世界各国で環境に関する協定や枠組みを締結し、未来世代にゆたかな自然を継承しようとする動きが加速しています。CO<sub>2</sub>の削減や省エネ、リサイクル促進やフードロス対策など、さまざまな環境負荷の低減に取り組むことが、いまに生きる私たち世代の責任です。持続可能な社会を築くために、企業にも個人にも自覚ある行動が求められています。



# 食品残さの活用により 循環型社会の形成を促進

## 循環型農業「セブンファーム」

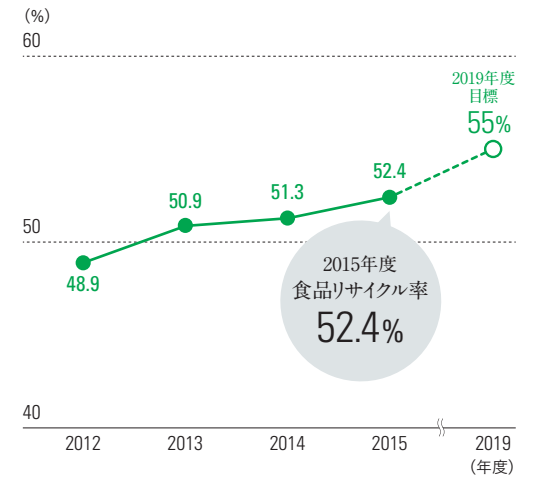
「セブンファーム」は、食品残さのリサイクルと、地域農業の活性化を目的にイトーヨーカドーと地域生産者が連携して2008年にスタートした事業です。販売期限の切れた食品を「資源」ととらえ、堆肥へリサイクル。その堆肥を使って栽培された野菜・果物は近隣のイトーヨーカドー店舗にて販売することで輸送コストの削減にもつなげています。2016年8月現在、セブンファームの取り組みは全国11か所に拡大しています。セブン-イレブンのお届けサービス セブンミールでも、セブンファームの野菜の取り扱いを始めています。



## 食品リサイクルを促進

お店では、あらゆるお客さまのニーズにお応えできるよう、天候や気温、地域のイベント情報などを確認して品揃えをしていますが、やむを得ず、販売期限切れの商品が発生することがあります。そこで、販売期限が過ぎた商品を適正処理する仕組みとして1994年から「エコ物流システム」を推奨。このエコ物流システムを活用し、全国24都府県にて販売期限切れの商品の堆肥・飼料へのリサイクルを推進しています。また、フライヤー商品に使用した油は飼料や工業用インクなどへのリサイクルを進めており、2015年度にはお店の食品リサイクル率は52.4%となりました。今後も食品廃棄物の循環利用を拡大し、資源の有効活用を進めていきます。

食品リサイクル率推移



## 販売期限切れ商品の有効利用

販売期限が切れたお弁当やお惣菜など(保存料・合成着色料不使用)をリサイクルした原料を含む配合飼料を指定の養鶏場で活用し、生産された卵をお弁当の原材料の一部に使用する循環型のリサイクルを2016年8月から始めています(首都圏約1,300店舗で実施)。



## 資源の有効活用により 環境負荷を低減

### ペットボトル リサイクル

使用済みのペットボトル容器をセブン-イレブンの店頭で回収し、再利用する取り組みを進めています。お客さまにも一緒に環境保全にご参加いただける仕組みです。資源の枯渇や環境問題が深刻化するなか、限りある資源を国内で循環させる取り組みとして、今後も設置店舗の拡大をめざします。



環境省の実証事業を経て東京都江東区のセブン-イレブンでテスト運用中



### 環境配慮型PET容器

2015年、オリジナル商品に使用している「サラダカップ容器」のすべてをリサイクルPETやバイオマスPETを配合した環境配慮型PET容器に切り替えました。この取り組みにより、2015年度は、CO<sub>2</sub>排出量を1,790トン削減しました。順次、ほかの容器にも拡大していく予定です。



店舗から回収されて、整備された後、出荷を待つ販売設備

### 店内設備のリユース

廃棄物の発生を抑制し、資源を無駄なく利用するため、閉店した店舗の冷蔵・冷凍ケースやPOSレジ、おでん什器、電子レンジなどさまざまな店内設備を回収し、清掃・整備、補修・点検を行った後、新たな店舗でのリユース(再使用)を進めています。2015年の1年間に回収・リユースした店内設備は、約32,000台に及びます。

### 適切な資源の分別を促す

#### 店内ごみ箱

お店では資源の有効利用を目的として、ごみ箱の店内化を進めています。ごみ箱を店内に設置することで、自治体が進める分別・リサイクルの推進に協力しています。「混ぜればごみ、分ければ資源」に、ご協力をお願いします。



### レジ袋の削減にご協力をお願いします

レジ袋の消費量を削減するために、これまで素材の薄肉化による軽量化やレジでのお声がけによる削減に取り組んできました。今後もいっそうの削減に向けて、積極的に取り組んでまいります。



# 森づくりによって地域の生活を変えた 「えりも岬セブンの森」

草も生えない荒廃した土地だった「えりも岬」。町や住民の要望を受け、国が1953年に緑化事業を開始しました。それから60年後の2013年、セブン-イレブン記念財団は森林を再生し、環境の維持・保全を支援するために民間の団体として初めて国有地であるえりも岬の森づくりに取り組み始めました。

## セブン-イレブン記念財団とは

セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年を機に、お店と本部が一体となって、環境をテーマにした社会貢献活動に取り組む目的で1993年11月に設立。全国のセブン-イレブンのお店でお客さまから寄せられた募金は、セブン-イレブン本部からの寄付金とあわせて地域に根ざした環境活動の支援に活用されています。



お店に設置している募金箱

## Scene 1

### 開拓により荒廃した「えりも砂漠」

明治時代の開拓によって森林が消失し、草も生えない荒廃した土地に。海が濁って海藻や魚介が減り、住民の生活にも支障をきたしていました。



昭和20年代のえりも岬  
(林野庁北海道森林管理局提供)

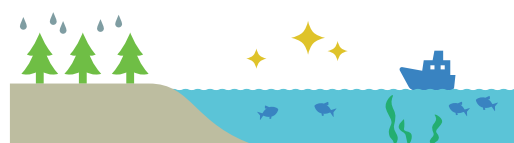
## Scene 2

### 海の浄化にもつながる 緑化事業のスタート

国の治山事業として、緑化事業がスタート。森づくりが進むにつれて、ゆっくりと海が浄化され、海藻や魚介が戻ってきました。森林がよみがえることで、海が育まれることが証明されたのです。

#### [緑化による海の浄化]

- 土砂を防ぐ
  - 水質を浄化
- 海が浄化 → 漁場活性化



防風柵の中での植樹活動(えりも岬・百人浜)

## Scene 3

### 地元住民との協働により、地域産業が活性化

2013年にセブン-イレブン記念財団は地元の「えりも岬の緑を守る会」と協定を締結し、「えりも岬セブンの森」づくりを開始。毎年6月に近隣のセブン-イレブンや本部の従業員も植樹に参加しています。また、セブン-イレブンではえりもの漁場を含む日高地方から採れる日高昆布を100%使用した「手巻おにぎり 日高昆布」を2009年に商品化するなど地域の食材を活用し、地域産業にも貢献しています。



「手巻おにぎり 日高昆布」  
日高昆布を使用したセブン-イレブンのおにぎり



地元の方と一緒に植樹



緑化によって海が浄化され  
漁業が活性化



セブン&アイグループでは、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ね、グループが優先的に取り組むべき5つの重点課題を特定しました。

## 5つの約束

- 1 社会インフラとして、すべての人が安心して便利にお買物できる社会を実現します
- 2 商品や店舗を通して、安全・安心を提供します
- 3 商品、原材料、エネルギーの無駄を省き、地球環境の保全に貢献します
- 4 性別、年齢にかかわらず、すべての人が活躍できる社会づくりを支援します
- 5 お客様やお取引先を巻き込んだエシカルな社会づくりに取り組みます

セブン-イレブンは重点課題への取り組みを推進することで、これからもいっそう、社会や地域の皆さまのご期待にお応えしてまいります。

## 環境方針

### 1. 事業活動に対する責任

私たちは事業活動の中で、環境保護、ロス削減、資源の有効利用・再資源化、省エネルギー、廃棄物の削減、環境汚染の予防につとめ、企業の責任を果たします。

### 2. お客様との協力と情報公開

私たちはお客様の声に耳を傾け、お客様とともに環境保護につとめ、その活動の結果を文書化し、広くお客様や社員に情報公開します。

### 3. 地域社会との協力・社会貢献

私たちは地域とともに環境について考え、環境分野の社会貢献活動を継続的に行い、企業市民としての役割を果たします。

### 4. 責任と自覚

私たちは、この環境方針にもとづき、企業や社会の中でそれぞれの立場で環境問題について考え、自分の役割を自覚して行動するようつとめます。

### 5. 環境目標の設定と見直し

私たちはこうした取り組みが年ごとに改善されるようにつとめ、環境に関連する法規制や私たちが同意した要求事項を遵守し、企業活動の分野ごとに自主的目標を定め、それを年ごとに見直し継続的に改善します。

2016年5月29日

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン  
代表取締役社長 古屋 一樹

## 会社概要

名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
代表取締役社長	古屋 一樹
設立	1973年11月20日
資本金	172億円
従業員数	8,054人 (2016年2月末)
チェーン全店売上高(国内)	4兆2,910億6,700万円 (2016年2月期)
店舗数(国内)	19,044店 (2016年8月末)